

実施要領 様式11(第13条関係)  
【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成22年2月3日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0291000016
法人名	社会福祉法人 三笠苑
事業所名	グループホームサンライフ碓ヶ関
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1 (電話)0172-49-5070
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成21年9月18日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.5人

#### (2)建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1～2階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	理美容代	実費	他
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—		
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円	
	夕食	350 円	おやつ		円
	または1日当たり		円		

#### (4)利用者の概要(9月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	黎明郷 大鰐病院 畑山医院 ESTクリニック 藤代健生
---------	-----------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は理念を理解し、目配り、気配り、心配りを大切に、明るい環境づくりに努めている。地域行事に参加したり、学校や保育所、併設児童館との交流を図るほか、運営推進会議メンバーや消防署へ災害時協力の働きかけ、無断外出時に備えた、警察への巡回依頼など、地域との交流と支え合いに取り組んでいる。

運営者は、より良いサービス提供へ繋げるため、職員の資質向上の必要性を理解しており、職員は研修後報告書を作成し、伝達研修を行うことで全職員に周知している。

同業者同士の交流を行い、情報交換することの必要性を認識しており、グループホーム協会に加入している。また、法人系列の他グループホームとの職員間の情報交換や行事等で交流を深め、お互いのサービス向上に反映させている。

利用者の暮らしぶりや健康状態について、家族等に面会時や電話にて報告しており、家族が意見等を話せる体制作りに取り組んでいる。

医療連携により看護師が毎週来所することで、いつでも健康相談を行うことができるほか、感染症への予防にも取り組んでいる。また、協力病院やかかりつけ医との連携を図り、緊急時は、緊急時対応手順に基づいて対応している。

### 【特に改善が求められる点】

事業所として地域密着型サービスの役割を意識した内容を理念に反映させることが望まれる。

高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れなど、事業所としての取決めを整備し、職員へ理解を図る取り組みを期待したい。

職員の力量や経験を踏まえた研修参加や段階的な職員育成を行うために、年間の研修計画を作成することに期待したい。

やむを得ず身体拘束を行う場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察の記録などを書面等にて明確にし、家族への説明と同意を得る体制を整備することが望まれる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を全職員で話し合い、できることから改善しており、「重度化の明確化」「他グループホームとの交流」「災害時飲料水、毛布の備え」など具体的な改善を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価のねらいや活用方法の周知に取り組んでおり、評価結果を基に改善を行うことは、サービス向上に繋がると理解している。自己評価は全職員に配布して記入して貰っており、管理者がまとめ、さらに職員が確認して完成させている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは会議の意義等を理解しており、事業所はメンバーが参加しやすいように年間開催予定計画を策定し、それに基づいて参加を促している。</p> <p>会議では、事業所運営や利用者状況、評価結果、地域状況等を話し合ったり、ホーム見学や行事参加を促し、事業所への理解を深めてもらい、災害時の協力等につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族面会時に職員から声を掛け、話しやすい雰囲気作りをしている。苦情受付窓口は外部相談機関も含め、重要事項説明書に明示しているほか、苦情処理体制等は事業所内に掲示して周知している。</p> <p>利用者サービスへの意見等については、家族等と十分な話し合いを行い、今後のケア提供に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域行事に参加するほか、事業所行事の案内等を町内掲示板に貼るなどし、参加を働きかけ、地域住民との交流を図っている。</p> <p>学校及び保育園との交流、併設児童館の子供との交流を図っている。事業所の見学や相談のほか、地域住民ボランティアの受け入れも行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念は申し送り及び会議での唱和や掲示にて、周知と理解がされており、職員は目配りや気配り等を心がけ、利用者とのコミュニケーションを大切に、理念の実現に日々取り組んでいる。</p> <p>職員は法人開催の学習会や外部研修に参加し、研修参加後は報告書を作成し、伝達研修を行うことで職員への周知を図っている。</p> <p>同業者同士の交流を図り、情報交換することの必要性を認識しており、グループホーム協会に加入している。また、法人系列の他グループホームとの職員間の情報交換や行事等で交流を深め、お互いのサービス向上に反映させている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>職員が直接利用者の自宅や入院・入所先へ出向いたり、利用者や家族に事業所の見学を促すなど、十分な話し合いを重ね、利用者の視点に立ったサービスの調整に努め、利用に繋げている。</p> <p>利用者とのコミュニケーションを図る時間を大切にし、利用者の話を聞くことで、気持ちの理解に努めている。また、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯たみ、野菜や花のお世話などを利用者や職員が共同しながら行っている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画は利用者や家族の意向等を参考に職員の話し合いにて作成している。また、定期的な見直しや状態の変化等に応じて、随時の見直しも行っている。</p> <p>馴染みの美容院やお店の継続利用や、急な買い物などの要望にも柔軟に対応している。</p> <p>利用者や家族等が希望する医療機関への継続受診を支援している。また、看護師が毎週来所し、健康相談を行うなど、気軽に相談できる体制が整っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の接し方や個人情報取扱いを申し送りや会議などで話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。</p> <p>食事の好みや苦手なものを把握し、苦手食には代替食を提供している。食事の準備や後片付けは利用者や職員で協力して行うほか、職員はできる限り利用者と一緒に食事し、必要に応じて声掛けやサポートをしながら、楽しい食事時間となるよう努めている。</p> <p>昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、災害時に協力が得られるよう消防署や運営推進会議メンバー等に働きかけている。災害時に備え、食料や飲料水、寒さ対策の毛布などを備えている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域資源活用や地域理解などを図ることで、地域密着型サービス事業所の役割を理解し、事業所独自の理念を作成しているが、理念内容に地域密着型サービスの役割を反映させるまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの役割を意識した内容を理念に反映させることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申送りや会議時に全職員で唱和したり、事業所内に掲示することで、理念の周知に取り組んでいる。職員は目配りや気配り等を心がけ、利用者とのコミュニケーションを大切にし、理念の実現に日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域行事に参加するほか、事業所行事の案内等を町内掲示板に貼るなどし、参加を働きかけ、地域住民との交流を図っている。学校及び保育園との交流、併設児童館の子供との交流を図っている。事業所の見学や相談のほか、地域住民ボランティアの受け入れも行っている。来訪者がある際は、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法の周知に取り組んでおり、評価結果を基に改善を行うことは、サービス向上に繋がると理解している。自己評価は全職員に配布して記入して貰っており、管理者がまとめ、さらに職員が確認して完成させている。前回の評価結果について職員間で話し合い、できることから進めて行くなど、具体的な改善を行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは会議の意義等を理解しており、事業所はメンバーが参加しやすいように年間開催予定計画を策定し、それに基づいて参加を促している。会議では、事業所運営や利用者状況、評価結果、地域状況等を話し合ったり、ホーム見学や行事参加を促し、事業所への理解を深めてもらい、災害時の協力等につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報誌やパンフレットの配布、評価結果の報告を行っている。また、業務上の疑問や問題点について、市町村担当課へ相談するなど、解決に向けた連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人開催の学習会に参加することで、制度の理解を図っており、必要に応じて利用者や家族等に情報提供を行うほか、関係機関と連携することで、事業利用につながる支援を行っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人開催の学習会にて、高齢者虐待防止への理解を図っている。管理者は日々のケア提供場面に関わり、職員同士がお互いに観察することで防止に努めているが、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れなどについて、事業所として明確な取決めを作成するまでには至っていない。	○	高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れなど、事業所としての取決めを整備し、職員へ理解を図る取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	関係書類に基づき、事業所理念やケア等の説明を行い、将来の不安や病院受診等の話し合いを行っている。契約内容の改訂時には、文書での説明を行い、同意を得ている。退居時も十分に話し合い、納得を得ており、利用者や家族等に不安が生じないよう情報提供等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態の報告を行っているほか、必要に応じて随時電話での連絡もしている。利用者の金銭管理は、出納帳で整理し、報告時には領収書を添付している。職員の異動等は広報誌に掲載して報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に職員から声を掛け、話し易い雰囲気作りに取り組んでいる。苦情受付窓口は外部相談機関も含め、重要事項説明書に明示しているほか、苦情処理体制等は事業所内に掲示して周知している。利用者サービスへの意見等については、家族等と十分な話し合いを行い、今後のケア提供に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動や新しい職員を配置する際には、利用者の状態に合わせて説明している。詳細な引継ぎを行うために、職員一名が同行して業務を行い、利用者及び業務の理解に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は業務上の悩みを相談し、助言を得られる人材を確保している。運営者は、より良いサービス提供へ繋げるために職員の資質向上の必要性を理解している。職員は研修後、報告書を作成し、伝達研修を行うことで全職員に周知している。また、法人で開催する学習会や外部研修に参加しているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員の力量や経験を踏まえた研修参加や段階的な職員育成を行うために、年間の研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流を行い、情報交換することの必要性を認識しており、グループホーム協会に加入している。また、法人系列の他グループホームとの職員間の情報交換や行事等で交流を深め、お互いのサービス向上に反映させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が直接利用者の自宅や入院・入所先へ出向いたり、利用者や家族に事業所の見学を行うなど、十分な話し合いを重ね、利用者の視点に立ったサービスの調整に努め、利用に繋げている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを図る時間を大切にし、利用者の話を聞くことで、気持ちの理解に努めている。また、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯たたみ、野菜や花のお世話などを利用者職員が共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを通して、担当職員だけでなく、全職員で観察し、利用者の意向や希望等の把握に努めているほか、必要に応じて家族からの情報も参考にしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り利用者の意見を聞き、会議において関係職員で十分に話し合い、利用者個別の介護計画を作成している。必要に応じて家族からの意見も参考にしている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、定期的に見直しを実施している。また、利用者の状態変化や家族等の希望の変化に応じて随時見直しを行っている。見直しを行う際は、再アセスメントし、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの美容院やお店の利用、専門科病院への継続受診の支援等を行っている。また、急な利用者からの買い物などの要望にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等が希望する医療機関への継続的な受診を支援している。また、看護師が毎週来所し、健康相談を行うなど、気軽に相談できる体制が整っている。健康状態や受診状況は随時報告し、家族と情報の共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、事業所の方針を明確にしている。毎週看護師が利用者の健康管理を行い、状態変化や受診で気になることは随時家族へ報告し、情報の共有を図っている。急変時は「緊急時対応手順」に沿って、関係機関と連絡を図りながら対応する体制ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定せず、トイレ誘導時は周囲に聞こえないよう小声で話したり、居室入室時にはドアノックを行っている。また、利用者の個人記録も適切に保管している。申送り時や会議等に、利用者への接し方や個人情報の取扱い方などの確認を行い、改善に向けた取り組みを行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かしたり、後回しにすること無く、利用者優先の対応を行っている。また、レク活動への参加等も無理強いせず、利用者のペースや意向、状態等に応じた柔軟な支援を行っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを把握し、苦手な食物には代替食を提供している。食事の準備や後片付けは、利用者と職員が協力して行っている。職員はできる限り利用者と一緒に食事し、必要に応じて声かけやサポートをしながら、楽しい食事時間となるよう努めている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本に、希望に応じて土日の入浴利用やシャワー対応も行っている。入浴時は利用者の羞恥心や負担感に配慮し、1対1での対応や、必要に応じて同性介助を行っている。入浴拒否する方には翌日再度勧めるなど、全く入浴しない週が無いよう柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴等を把握しており、日常生活における食事の準備等を個々の状態に合わせて、日々の役割として行っている。また、ミニドライブや歌、おやつ作りなどの楽しみ促す働きかけも行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、前庭の椅子やテーブルでティータイムをしたり、体操や周辺地域の散歩などを行っている。遠出する際の行き先は利用者と話し合い、移動手段として車や車椅子などを活用するなど、利用者の健康状態に配慮した外出支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わない姿勢でケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法などを、記録に残す体制や家族への説明と同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合は、理由や方法、期間、経過観察の記録などを書面等にて明確にし、家族への説明と同意を得る体制を整備することが望まれる。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に出入りする場所の施錠理由や、玄関自動ドアの押ボタン位置が高めなっている理由を家族等へ説明し、同意を得ている。外出傾向のある方には、見守りや付き添いを行っているほか、無断外出時に備え、事業所周辺を警察の巡回コースにもらうなどの協力を働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、災害時に協力が得られるよう消防署や運営推進会議メンバー等に働きかけている。災害時に備え、食料や飲料水、寒さ対策の毛布などを備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員により、栄養バランスに配慮した献立となっている。職員は一日の総摂取カロリーや水分摂取量を把握しており、食事摂取量を記録している。また、水分摂取は医学的管理が必要な方やあまり飲まない方を対象に記録をしている。事業所内栄養士及び法人管理栄養士からの指導、助言を得られる体制ができている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、行政等からの感染症の最新情報を収集しながら、随時マニュアルの見直しを行い、対応のための学習会も行っている。家族等へは文書通知や事業所玄関に予防に関して掲示したり、消毒剤やマスクを準備するなど、感染症予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に利用者が集う場所には椅子やテーブル、テレビなどが置かれ、テレビの音量や職員の立てる物音も騒がしくない。また、職員と利用者で作成した季節の飾りや行事写真が貼られ、窓からは暖かい日差しや田園や山の紅葉の風景を楽しむことができる。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みを働きかけており、家族写真や位牌を飾り、テレビなどを持ち込むなど、自分らしい居室作りを職員と一緒にしている。		

※  は、重点項目。